

令和6年度

大井川の源流部を学ぶ視察会 実績報告

視察日 令和6年10月20日（日）



大井川の清流を守る研究協議会

日程

期日	項目	時間	行程及び説明内容
10 月 29 日 (日)	島田駅南口 (ロータリー)	7:40	集合
	概要説明	7:40~7:50	研修会の概要説明、視察資料の配布
	四季の里	8:50~9:00	トイレ休憩
	牛の首(小山)	9:20~9:30	大井川で2番目に建設された発電所跡
	畑薙第一ダム	10:40~10:50	大井川上流部に建設された中空重力式(ホーロー・グラビティ)ダムとしては世界で最も高い、高さ125mのダムで、下流の畑薙第二ダムとともに初めて混合揚水式発電を行うダムとして建設された。
	赤崩	11:20~11:30	土砂崩壊地の見学
	樫島付近の 現状視察 (昼食含む)	12:10~13:00	リニア中央新幹線建設工事にかかる 宿舎及び工事ヤードの見学
	田代ダム	13:40~14:30	東京電力からの説明と取水口や流沢 の見学
	燕沢	14:50~15:00	リニア工事に伴う残土置き場の見学
	四季の里	17:50~18:00	トイレ休憩
島田駅南口 (ロータリー)	19:00	解散	

【参加者】

一般参加者 20人

(藤枝市4人、島田市3人、御前崎市3人 焼津市2人、牧之原市2人、菊川市2人、川根本町2人、掛川市1人、吉田町1人)

講師1人、事務局4人



畑薙第一ダム



畑薙第一ダム



田代ダム



田代ダム



田代ダム



赤崩

R6 「大井川の源流部を学ぶ視察会」に関する意見・感想について

○参加者数：20人（内回答者数：20人）

○視察会開催をどのような形で情報をえましたか。

- ・新聞掲載 11人
- ・市町の「広報」など 6人
- ・友人等からの紹介 3人

○河床の変化や両岸の山腹崩壊など、大井川上流部の現状を知っていましたか。

- ・知っていた 6人
- ・知らなかった 14人
- ・関心がなかった 0人

○大井川の現状を視察して、どんなことを感じましたか

- ・発電等の目的のダム・堰堤は、関係地域に大きな役割を果たし、人々の暮らしや地域の向上発展に寄与し、欠くことのできない様々な恩恵を改めて強くする1日でありました。しかし、各地に見られた堆積土砂、谷ごと一体の崩壊等々、想像を大きく超えた厳しい現状に強く心を痛めました。（藤枝市）
- ・リニア工事に振り回されることなく、現実には起きている自然災害、その対策状況を広く知らせる緊急的な事態であると思いました。（藤枝市）
- ・視察会を通して、日常生活に欠かせない水と電気を与えてくれる大井川の有り難みを感じた一方で、上流部の山腹崩壊や土砂堆積による河床上昇の現状を知り、ダムの功罪について考えさせられた。（焼津市）
- ・ダム・発電所の建設によって、川が本来持つ水的作用（川の水が石を運ぶ）が失われてしまい、堆積土砂排除は喫緊の課題である。また源流部では、リニア工事に伴い懸念される水枯れや盛土の問題もあり、開発と自然環境の保全のバランスを今一度考える時期にあると感じた。（焼津市）
- ・上流を流れるとてもきれいな水に感動しました。しかし、私が見た川を流れるその水は、実は全体の中のほんの少力で、大部分はダムや堰堤に取水され、ほぼ川には戻らず、山の中を張り巡らされた巨大な導水管を通して発電に使われ、最終的に水道水、農業用水、工業用水に使われていることを知り勉強になりました。（掛川市）
- ・大井川の水を守り、時には水と戦い、施設を造ったり、工事したり先人達

が大井川を大切にしてきたことを感じました。地表の流れだけではなく、思った以上にトンネルを流れる距離が長いと思いました。これは普段の生活の中ではなかなか気づかないことです。(島田市)

- 自分の生活を豊かにするために、いろいろなことを今までやっていることやそれを守るために今もたくさんの方がお金や労力を使ってくれていることが分かった。自然を守ってほしいと思った。知らないことがたくさんあって知ることが出来て良かったです。今後リニアの関係でもしも水が減ったら確かに困ると思った。(牧之原市)
- 川という公共のものは全体を見渡して管理していかないとその恩恵には預かれないと感じた。一部の人や企業が気ままに動かすのは危ういと思う。(菊川市)
- 自然の形の変化に驚きました。人の手を丁寧に入れていかないと荒れてしまう怖さを感じました。(吉田町)
- 大井川の清流を守るために源流部の保全はもとより、個人でも日常的に環境保全を行っていく必要がある。(川根本町)
- たいへんな量の石などが河床を埋め尽くし、河床が上がってしまっていることや山腹の崩壊がかなり進行していることに驚きました。やはり、自分の目で確かめることで現状理解が進み、対策の必要性を実感しました。(焼津市)

○行政や流域住民はどんなことをやっていったら良いと考えますか

- 視察会は、厳しい大井川の状況を知るうえで、実に機を得た企画であり、地域住民にとっても貴重な機会であります。一般住民対象も大切ですが、指導的立場にある関係者の方々には、更なる関心事かと思えます。リニアもある中、参加負担金を倍額にした上で、開催回数についても検討していただきたい。(藤枝市)
- 大井川の恵みを享受する流域住民は、「当事者」として、大井川水系とダム運用の現状と課題について知り、学んでいく必要がある。ただ、参考文献は刊行年が古いものが多く、直近の状況についてまとまった資料が少ないように思う。行政には、大学・研究者と協力して中立的な視点を持つ資料を作成するほか、かつて大井川のダム・発電所建設により移住を迫られた人々や「水返せ」運動に関わった人々との記憶を後世に伝えていくためのアーカイブの作成・公開の取り組んでほしい。(焼津市)
- 大井川は島田・川根本町のみで守っていくのは大変だと思います。水資源

を利用している地域にも協力してもらおう活動が必要だと思います。(川根本町)

- 流域ダム貯水能力を高めるためにダム湖に溜まっている土砂除去の促進を進めた方が良いと感じました。流域住民に対しては、大井川の現状の広報活動を自治体連携して進めた方が良い。また、水を大切に使い、大井川の源流地域に理解を深め環境や観光イベントなどに積極的に参加することをやった方が良いと感じました。(藤枝市)
- SNS や動画配信により、より多くの人々に大井川の大自然の魅力を感じてもらい保護活動に繋がっていくと良いと思います。(御前崎市)
- 親子遠足など、少人数でもいいので実施していただきたい。(御前崎市)
- 大井川流域には、きれいな水の恩恵を受けて作られているものも多いと思う。そのような新しい作品を皆に紹介しながら、大井川源流に興味を持ってもらう。(島田市)
- 水や河川敷などを利用する人たちの意見が反映される協議の場ができるといいのではないかと思う。(菊川市)
- 偏った見方ではなく、教育をする必要があると思った。(牧之原市)

○その他

- ダム運用関連企業や住民運動活動団体、大学、研究者、行政(国・県・市町)を交えたセミナーの開催をお願いします。(藤枝市)
- 宿泊費等を徴収して1泊2日でゆっくり見学するようなイベントも面白いと思います。(川根本町)
- 道路環境が大幅に改善しており、国道362号バイパスの拡幅や接岨から井川へ抜ける道路の拡幅が更に進めば、交流人口が増加すると思います。(藤枝市)
- 講師の小澤さんから多くの学びをもらい、今までより大井川が好きになりました。(御前崎市)
- 大井川の水を利用した井川蒸留所工場を見学したり、違う視点から清流を見るのも良いと思う。(島田市)
- 中部電力、東海フォレストなどのお話も聞いてみたい。(島田市)